

シンポジウム「21世紀、いま新たに装飾について考える」

趣旨説明

オーガナイザー 東北芸術文化学会 團 名保紀

東北にはかつて独特の文様やデザインからなる縄文文化が存在していました。また津軽塗りや会津塗り、南部裂き織といった伝統工芸で知られ、「ねふた」や「七夕」等祭りも盛んです。東北芸術文化学会がこのたび芸術学関連学会連合シンポジウムのキーワードを「装飾」として提起するのには、こうした地域的背景もありました。しかしより大きな理由があります。

2016年は、東京オリンピックの準備が本格化する中で、メインスタジアムの設計案やエンブレムのデザインに関しマスコミをも巻き込み議論が沸騰しました。他方20世紀を代表する建築家ル・コルビュジェ設計の国立西洋美術館がユネスコの世界文化遺産になりました。こうしたことをきっかけとして、今後人々が、建築やデザイン、ひいては芸術に対し一層関心を高めていくことが期待されます。

ル・コルビュジェは「住居は人が住む為の機械である」とし、建築を、機能や合理性に徹すべくしました。そして装飾を建築の表面から追放し、単純な三次元的形体をその基軸としました。しかし近代デザインの皮切り、ウィリアム・モーリスによるアーツ・アンド・クラフツでは、人間性を欠いた産業革命への批判から、絵画・彫刻・建築のいわゆる「大芸術」と、生き生きした手工芸、装飾等の「小芸術」の、癒合が図られていました。その影響を受け生まれたバウハウスですが、当初、諸芸術の統合としての建築を目ざしたものの、やがて、経済性、機能主義、合理主義の観点から、装飾や工芸の要素は影をひそめて行きました。ル・コルビュジェに代表される無装飾性による20世紀近代建築の流れは、強い影響力を発揮し、我が国を含み、ともすれば経済的で効率、機能一辺倒の、そして潤いや人間性に乏しい都市景観が広がることになりました。そうした流れに飽き足らず1980年代登場したのが装飾性、それゆえある種のストーリー性をも訴え得るいわゆる「ポストモダン建築」です。しかしそれらは総じて奇抜で斬新であっても、いかなるものが永続的に心響くものたり得るか問われるでしょう。

いずれにせよ、人類の歴史では、いでたちを整え、美しく飾り、装うことは精神を律する行為であり、愛し信ずるものに向き合う心の営みとしても重要でした。それゆえ「装飾」は、人間と社会、芸術にとり本源的なものであった筈です。例えばヨーロッパの中世やルネッサンスの建築家、彫刻家、画家はしばしば偉大な工芸家でした。また彼らは工芸家とのコラボレーションのもとで作品を制作し、装飾に通じていました。ルネッサンスの芸術理論を打ち立てたレオン・バティスタ・アルベルティは「建築論」で、機能、目的に叶う堅牢で優美、心地よい建築を求めました。その際「美とは何物を加えても、減じても、また直しても、その形を損なわせずにおられないもの。あらゆる部分の整然とした調和体」とする一方、「建築は、その美を完結させるため優れた装飾（オーナメント）を必要とする」

としました。装飾とは、通常考えられるように決して辺境的で、第二義的なものではなく、価値ある存在にとり、もっと本質的で重要なものなのではないでしょうか。それはあらゆるジャンルの芸術に、互いを飛び越え、変幻自在に付随し、また全体を活気づける核としての力を発揮し得るものではないでしょうか。こうして例えばオペラのような総合芸術や、祝祭のような人々の集いの場で大いに力を発揮するでありましょう。外面を飾るだけでなく、芸術の奥深くまで浸透し、その装飾様式が時代や社会の空気全体をも支配したロココやアール・ヌーヴォーのようなケースも思い起こされます。ですから今後芸術、そして人間社会はメディアや新技術との交流のもと、「装飾」をキーワードに、一層活気づくことも考えられるのではないのでしょうか。

元来芸術にとり重要である筈の「装飾」について、芸術研究に携わる諸学会があらためて問い直し、「装飾の過去と現状」を見ながら、「装飾の今後」、可能性について検討したく、シンポジウムのタイトルを「21世紀、いま新たに装飾について考える」としました。

なお、このたびのチラシを飾るのは、一昨年フローレンス・現代アート・ビエンナーレの、新設なったテキスタイル・アート部門で金賞を得た中川泰通氏の「TORA」です。大きな立体的な木の型、その複雑な凹凸面に布地を張り込み、精彩ある色彩で繊細な文様を描いています。ダイナミック、豪快で、また「和の美」が存在します。テキスタイル・アートですが絵画、彫刻、そして建築にすら通じ、ジャンル越えの特色が息づいています。テキスタイルの本場フィレンツェを魅了した作品で、装飾に対する今日の展望を目指す当シンポジウムにふさわしいものと思われまます。以上、シンポジウムにつきまして、オーガナイザーからの趣旨説明と致します。